

## ボランティア活動に参加してみたい方へ

- ①学生ボランティア団体に参加してみる
  - ②学外のボランティア団体・NPO等に参加してみる
  - ③ボランティア活動のコーディネートや企画運営を一緒にやってみる
  - ④ボランティアフェア(ボランティア団体の紹介イベント)に参加してみる
  - ⑤ボランティア情報メール配信サービスに登録してみる
- 団体紹介ページ(p14~23)
- SCRUM紹介ページ(p5,6)
- 特設サイト(各種リンク)
- 公式サイト(各種リンク)のフォームから

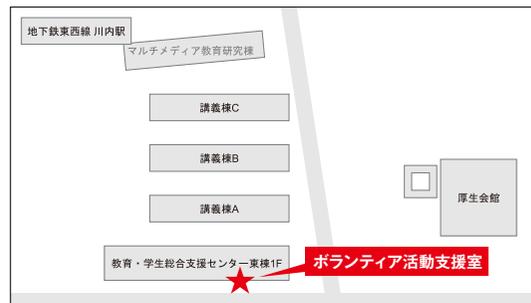
## ボランティア活動支援室利用案内

在学生の皆さん向けに、ボランティア活動に関する個別の相談を受け付けています。ボランティアの情報がほしい、活動に関する悩みがある、団体設立を考えている等、どのような相談内容でも構いませんので、お気軽にご利用ください!

### 【時間・相談予約】

対応時間: 平日11:00~17:00(原則)

予約方法: 公式サイト(各種リンク)にあるフォームからお申込みください。



### 各種リンク

SCRUM SNSで情報発信中! | X @TOHOKU\_VOL | Facebook @voltohokuuniv | Instagram @scrum\_1446



ボランティア活動支援室  
公式サイト



ボランティアフェア  
特設サイト



ボランティア情報  
メール配信サービス申込

# Volunteer Seminar Journal Vol.20

発行日 2025年4月1日

発行者 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 キャリア・社会連携支援センター  
ボランティア活動支援室 〒980-8576 仙台市青葉区川内41

編集者 高橋結・伊藤方子・明珍達也・  
斉藤鞠里・穂積はるか

連絡先 Tel:022-795-4948 E-mail:volu2-s@grp.tohoku.ac.jp

# Volunteer Seminar Journal Vol.20

2025 Spring  
ボランティアセミナージャーナル



ボランティアへの  
新たな一歩を  
応援しています!

## 目次

### 東北大学のボランティア支援

ボランティア活動支援室について ..... p3,4  
 東北大学SCRUMについて ..... p5,6

### 特集 令和6年能登半島地震と災害ボランティア

令和6年能登半島地震について ..... p7  
 ボランティアに参加した学生にインタビュー! ① ..... p8,9  
 ボランティアに参加した学生にインタビュー! ② ..... p10,11  
 【コラム】教育と居場所づくり ..... p12  
 【コラム】ボランティアコーディネート ..... p13

### ボランティア団体の紹介

団体一覧 ..... p14  
 震災関係 ..... p15~17  
 国際 ..... p18  
 防犯 ..... p18  
 地域支援 ..... p19,20  
 教育・学習支援 ..... p21~23  
 キャリア・若者 ..... p23  
 ボランティア活動に参加してみたい方へ ..... p24  
 各種リンク ..... p24

## ボランティア活動支援室について

2011年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、多くの学生たちがボランティア活動に取り組むようになりました。

東北大学では、2011年に「東日本大震災学生ボランティア支援室」を開設し、学生の被災地での活動の支援を行ってきました。さらに、2014年からは被災地のみならず、ボランティア全般を支援する「課外・ボランティア活動支援センター」となり、社会貢献活動、ボランティア活動を伴う「サービスマーケティング」を特徴とした授業も展開するなど、みなさんがボランティア活動や地域に触れる機会をつくることに積極的に取り組んできました。

2025年春からは「キャリア・社会連携支援センター」中にある「ボランティア活動支援室」としてボランティア活動に関する総合的な支援を行っていきます。

なお、ボランティア活動支援室では、学生ボランティア団体の支援だけではなく、ボランティア活動、社会貢献活動全般に関心を持つ学生と活動現場や団体とのマッチング、コーディネートも行っています。

ボランティア活動は、地域を知り、人と出会い、様々な現代社会の課題を学ぶきっかけにもなります。これからもみなさんの自発的な活動を応援し、活動できる場を提供していますので、積極的に活用してみてください。

### ボランティア活動支援室が提供する主な支援

支援	具体例
ボランティア活動に関心のある皆さんへの活動紹介・活動体験機会の提供	ボランティアフェアの開催、ボランティア体験プログラムの開催
社会貢献活動を取り入れた授業(サービスマーケティング)の提供	(4ページを参照)
ボランティア活動を行う団体の支援	研修会の企画、団体間連絡会議の開催、物品・場所の提供、助成金の紹介
新たなボランティア活動の企画・創出	救援活動の企画(災害発生時)、地域社会と連携した(ニーズに対応した)新たな活動の企画
学生スタッフSCRUMの育成	(5ページを参照)

## サービスラーニング

ボランティア活動支援室では、ボランティア活動を支援するだけでなく、ボランティアや社会活動、フィールドワークを伴う授業を開講しています。授業では、「サービスラーニング」と呼ばれる手法を取り入れていることが特徴です。

サービスラーニングとは、社会貢献活動やボランティア活動を伴う学習(教授)方法の一つです。活動現場と大学(教室)を行き来することで、地域社会にある様々な課題と出会い、学びを深めていくことができます。

サービスラーニングにおいては、「振り返り(Reflection)」と「互恵性(Reciprocity)」が重要です。現場に出て学んだことをそのままにしておくのではなく、次に活かせる経験としてしっかりと振り返り、現場に還元していく。その循環を大切にしています。



仙台自主夜間中学での活動



気仙沼でのイベントのサポート

## ボランティア活動や災害被災地の課題に触れてみたい方へ

東日本大震災被災地等でのボランティア活動やフィールドワークを通して社会に貢献しながら学ぶことのできる科目を開講/開講協力しています。授業を通して現場に飛び出し、一緒に学んでみましょう!

科目群	授業題目	担当教員	開講時期
国際教育科目	国際教養PBL	大吹 哲也	2025年度は開講なし
カレントトピックス科目	福島復興・再生	御手洗 潤、岩瀬 恵一、江口 博行、小野寺 秀明、ゲルスタ ユリア、大吹 哲也	[2S,4S]木5

※下線部は、ボランティア活動支援室 教員

## 東北大学SCRUM

東北大学SCRUMはボランティア活動支援室の学生スタッフ組織です。ボランティア活動を「したい人」・「している団体」のつなぎ役(中間支援)として、それぞれに向けた活動・企画を行ってきました。また、充実した支援を行うため、SCRUMメンバー自らが多様なボランティア活動の企画・参加や勉強会の企画も行っています。SCRUMでは、以下のように活動における3つの柱を掲げています。

SCRUMの具体的な活動は多岐にわたり、それらは大きく4つの系統に分けられます(右記参照)。それぞれの活動に関心のある人が集まり、プロジェクトチーム(PT)を結成し、自身の興味に応じて活動しています。

さらに主に東北大生を対象としたツアー、SNSや勉強会などを通して、メンバー外への情報発信活動なども積極的に実施しています。

学ぶ・深める

- 震災伝承系
- 災害救援防災系
- 魅力発信系
- 地域ボランティア系

SCRUMは、ボランティアをやりたい人と、実際にやっている人・団体をつなぐ「ボランティアのボランティア」をしています。ボランティアをしたい人に対しては、ボランティア活動・ボランティア団体の広報を行い、ボランティア団体と合同企画の実施や情報共有・連携を行っています。

SCRUMはボランティア活動支援室と連携して、ボランティア団体合同説明会(ボランティアフェア)やボランティア情報を掲載する「ボランティアセミナージャーナル」の執筆など様々な形でボランティア情報の拡大と充実を図っています。

ボランティア  
 の  
 ボランティア

SCRUMでは、震災伝承に関する活動や、災害時の支援活動、地域の魅力発信など多様な活動を実施しています。

また、他のボランティア団体と連携した活動にも取り組んでいます。

ボランティア

- 各PTでの活動
- ニーズに対応したボランティア活動の企画、実施
- 災害時の支援活動

## 活動紹介

SCRUMでは、仙台市・宮城県内を中心に様々な分野の活動をプロジェクトチーム(PT)として行っており、それらは大きく4つの系統に分けられます。一つ一つの活動を通して、SCRUMが掲げる3つの柱を実践・実現することを目標にしています。

名称	活動内容
震災伝承系	震災について自分たちで学んだうえで、震災の記録と記憶を伝え続け、災害を「自分事」として捉えてもらうための活動をしています。石巻市震災遺構大川小学校での「語り部活動」や、震災学習のために震災遺構や伝承館を訪問するツアーを行っています。
災害救援防災系	有事の際にSCRUMは何かができるのかを知り、行動に移すことができるように活動しています。災害時の緊急支援だけでなく、日頃から災害救援活動に対する勉強会などを実施しています。
魅力発信系	地域の魅力を発見し、たくさんの人に興味・関心を持ってもらうための活動をしています。Instagramでの情報発信や地域の魅力を探るインプットツアー、東北大生を対象とした魅力発信ツアーを実施しています。
地域ボランティア系	メンバーの興味関心に沿ったボランティアに取り組み、ボランティアの機会を提供することを目的に活動しています。各種イベントのボランティア活動や東北大生がボランティア団体を知る企画を実施しています。



- 1 震災伝承系**  
震災遺構大川小学校で語り部を行う様子
- 2 災害救援防災系**  
勉強会の様子
- 3 魅力発信系**  
魅力発見ツアーにて石巻市で活躍している方にお話を聞いている様子
- 4 地域ボランティア系**  
山元町での「はじまるしえ」に参加した際の様子

## 特集

# 令和6年能登半島地震と災害ボランティア



## 令和6年能登半島地震の概要

2024年1月1日16時10分に石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生、輪島市・志賀町で震度7を観測しました。この地震により、石川県能登に対して大津波警報、山形県から兵庫県北部中心に津波警報が発表されました。

また、断層の上下方向の動きによって地層が隆起し、奥能登へのアクセスルートが寸断されたことで消火活動にも遅れが生じ、道路や水道管などのインフラや住居は甚大な被害を受けました。

令和2年(2020年)時点で、奥能登地方の高齢化率は48.9%となっており、被災者の中に高齢者や要配慮者が多かったことから、積極的に二次避難\*の呼びかけが行われました。

震災から1年が経過し、生活インフラの復旧が進められていますが、加速する人口減少・高齢化への対応、コミュニティの再形成、被災した方々の心のケアなど、まだまだやるべきことがたくさんあります。

\*二次避難:被災地から生活環境の整った旅館やホテルなどの宿泊施設に移ること  
 参考文献: [https://www.bousai.go.jp/jishin/oto/taisaku\\_wg\\_02/pdf/siryo2.pdf](https://www.bousai.go.jp/jishin/oto/taisaku_wg_02/pdf/siryo2.pdf), <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kenju/jskk/documents/chapter2.pdf>

## 東北大生有志による能登半島支援

1月中旬に立ち上がった有志による支援チームを中心に、2月中旬から9月まで、計5回、合計21名の学生が能登半島でボランティア活動を行いました。主に、石川県珠洲市、穴水町、七尾市、輪島市などを訪れ、被災家屋の片付けの手伝いや仮設住宅での足湯提供、チャリティイベントの手伝いなど、その時々で自分たちにできる支援を行ってきました。

現地への訪問は、「行きたい」という思いだけでは実現せず、「被災地とのネットワーク」「被災地での活動に関する知識・経験」や「移動手段の確保」など、様々な要素が必要です。今回は、平時より大学内外のボランティア団体とネットワークを築いていたことや災害救援の知見、ノウハウを共有してきたからこそ、実行することができました。

## ボランティアに参加した学生にインタビュー! ①



### 若生 みりあ

農学部2年 / 大阪府出身

所属団体 東北大学 SCRUM ▶p5,6, p15

震災伝承系と災害救援防災系の活動に参加

#### 能登半島でのボランティアで感じたことや不安だったことを教えてください。

まず、能登に実際に行ってみて想像以上に復興が進んでいない現実を目の当たりにし、報道で流されている情報との差に衝撃を受けました。

被災者の中でも二次避難している人たちと現地に残っている方で、復興について考えている方向性が違うこともあります。一言で復興と言っても、さまざまな考えの人がいて、復興の過程で分断も生まれてしまっているようでした。では、その問題に対して能登に行く自分たち学生はどういうことができるんだろうというのも考えましたし、一方でその中に自分たちが入っていった方がいいのかなという気持ちが正直ありました。

また、現地を視察したときには、いつになったらこの場所に普通に住めるようになるんだろうかという復興への道のりの長さや無力感や虚しさを感じさせられました。ただ、直接現地の方から話を聞いて、ボランティアのニーズは間違いなくあるということも実感しました。

金沢駅で古い着物をバザーのように売るチャリティイベントに参加したのですが、売られている着物の中には、元旦の地震の時に崩れた家から取り出されたものもありました。崩れた家から着物を出す時に汚れがついてしまって、どうしても汚れが取れないものも売り出されていました。着物ってとても大事に保管していたはずなんですよね。さまざまな種類の着物を見て、この着物はどのような人が持っていたんだろうか、大事に保管していたものを突然起こった災害のせいで



手放さなきゃいけないようになった人の気持ちはどのようなものだろうかと考えました。

災害は家を失ったり命を失ったりするだけではなくて、何か大切にしていたものも失わせるものなんだと感じました。

#### 実際に現地の方とお話して、どのようなことを感じましたか。

公衆浴場を営業している方にお話を伺った際に、ずっと同じ地元に住んでいる人たちでも、復興に対する考え方が違うことを教えてくださいました。それは世代間で違うこともあるし、地元に残り続けている人と二次避難している人でも違います。同じ家族の中でも父親、母親、子どもの間で意見が違うという話も聞きました。地域のコミュニティや家族は、何もなければそのまま安定して続くように見えます。しかし、災害など、急にコミュニティが崩れることがあった時に皆が同じ方向を向くことは難しく、コミュニティの弱さを感じました。

#### これから、能登半島でのボランティアにどのように関わっていきたいですか？

私が中学生の頃から、地震に限らず、豪雨などの災害が増えたと感じています。毎回報道を見て心を痛めているだけで、それがもどかしいなと思っていたのが中高生時代でした。そして大学生になって、自分で自分の行動を決められるようになったので、もどかしいと思いつけるより、できることがあるならしたいと思います。

#### 今考えている具体的な支援はありますか？

ソフト系の支援を考えています。ソフト系というのは、土砂の運び出しや家財の整理など、体を使うハード系とは異なり、現地の方と交流をしたり、住民さん同士のコミュニケーション支援を行う支援です。

その中でも一番興味があるのは子どもに対する支援です。元々あった公園が全て仮設住宅の建設地になり、子どもたちが思い切り遊べる場所が減ってしまっているという話を地元の方から聞きました。もし今後能登に行くことができれば、子どもたちが思い切り遊べる場所や子どもたちと一緒に遊べる時間を作れたらいいと思います。災害が起きて、今まで経験したことのないストレスを感じている上に、今まで通り遊ぶことができないという別のストレスも抱えているはずで、普通に遊べる環境を作れたら、そのストレスも少しは軽減できるのかなと思っています。

#### 最後に、学生が被災地へ行くことの意味は何だと思えますか？

他の地域からボランティアに行くことによって、被災地のことを忘れていないということ、実際に行動で示せることだと思います。

## ボランティアに参加した学生にインタビュー! ②



### 鈴木 一平

工学研究科修士1年 / 東京都出身

所属  
団体

東北大学陸前高田応援サークル **ぼかぼか** ▶p15

サロン活動や子ども向けの企画をメインに活動

#### なぜボランティアに参加したのですか。

2024年の正月明けの地盤工学や津波工学の授業で、能登の現地調査をしてきた先生から、被害が酷くて途中までしか行けなかったという話を聞き、被害の深刻さを感じました。そこで、教室で話を聞くだけではなく、1度自分で見て確かめたいという思いがあり、派遣に参加しました。なので、ボランティアをしたいというよりは、まずは現地に行ってみたいという気持ちの方が最初は強かったです。

#### 能登ではどのようなボランティアをしましたか。

僕は2月、4月、6月は支援チームの活動として、5月は個人的に、能登へ行きました。最初は、瓦礫撤去や家の中の片付けなどのハード系の活動がメインで、徐々にサロン活動\*1や子ども向けの企画、足湯企画\*2などのソフト系の活動が増えていきました。

#### 能登でのボランティアを通じて感じたことを教えてください。

まず、初めて行ったとき、想像以上に被害が酷かったというのが第一印象でした。特に輪島は二次避難をしている人が多かったため、本当に町に人がいない状況でした。当然、片付けや瓦礫の撤去も全く進んでおらず、おそらく震災直後からこの状況なんだろうな、何も進んでいないんだなというのをすごく実感しました。

また、作業を通して感じたこととしては、学生ボランティアが力仕事をして貢献できることは本当にわずかだったということです。仙台から能登半島までは車で10時間の移動時間があり、3泊4日の行程だとしても2日間ぐらいしか活動できません。また、僕たちに特別、力があるわけでも、機械を使って瓦礫撤去ができるわけでもない、所謂、素人のような感じでした。なので、僕たちがかける労力に対して、貢献できることはわずかだと思いましたし、それに対する無力感はとても感じました。

\*1 サロン活動: 仮設住宅等でお茶会や手芸企画を行うことを通じて、住民同士のつながりを深める場をつくることを目的とした活動のひとつ。

\*2 足湯企画: ボランティアと被災者との間に双方向の交流を生み出す活動のひとつ。

一方で、初めてボランティアに家の片付けを依頼したお宅にお邪魔し、1日かけて作業をした後に、「1日でここまで片付くとは思わなかった、ありがとう」という言葉を頂きました。それがすごく心に残っていて、やはりまずは行くことに意義があると思いました。

#### 活動の中で印象に残っている出来事はありますか。

足湯の際に70歳くらいのおばあちゃんから聞いた話が非常に心に残っています。最初は来てくれてありがとうという感じで、元気におしゃべりしていたんですが、一言、「震災で大変でしたね」という言葉をかけたら、一気に表情が曇り、今まで溜まっていた感情を吐露していただきました。イベントの雰囲気明るかっただけに、その一言がとにかく強烈に残っています。物理的な片付けの問題や、ハード面の復興はいずれ終わりが来るんですけど、心のケアはなかなか終わりがなく、長期戦になる難しい問題だと感じました。

#### 複数回、現地に行ったからこそ分かったことはありますか。

ボランティアに参加する側への支援があると良いなと思いました。能登への交通費や宿泊費に関しては、他のボランティアの方も、自分で賄っている人が多かったです。もちろんボランティアだから賃金が発生するものではないですが、その負担を減らす仕組みがあってもいいのかなと思いました。制度が確立していない状態だと、ボランティアに関心がある人にとっては、行ってみたいけど行き方が分からず、お金もかかり、どこで受け入れてくれるかも分かりません。行きたくても行けない人を受け入れられる、現地でボランティアを管理する人たちの負担を減らせるような体制、仕組みが必要だと思いました。

#### 最後に、読者に伝えたいことはありますか。

2024年9月に能登の豪雨が発生したことで、復興が振り出しに戻ったという話を能登で知り合った方から聞いているので、時間がある人は行ってほしいと思います。報道されていることは断片的な情報なので、やはり現地に行ったからこそ聞けることや、自分の目で見ることで感じることはたくさんあります。まずは1度、能登に限らず、災害が起きたところに足を運んでみるというのはすごく良い経験になります。現地の人からすれば、そういう状況で来てくれるだけでもすごく励みになります。特にボランティアに関わる学生の皆さんには、現地に足を運んでほしいなと思います。



## Column 教育と居場所づくり

穂積 はるか 教育学部3年

能登半島地震の影響で、多くの児童・生徒が普通の環境とは異なるところで教育を受けています。地震発生から50日ほど経過した2月下旬の時点では、珠洲市や輪島市で約半数の小・中学生が自宅以外の場所にある学校に通っています。地元を離れて金沢市の学校に通う子どももいます。11月の時点では、輪島市の子どもの約3割が市外に転出し、新たな場所で学習することになりました。普段と異なる学校生活は、転出した子どもたちだけでなく、地元に残った子どもにも影響を与えています。子どもの減少により学校併合が進んだため、地元に残った子どもも今までは異なる学校で学び始めています。地震の影響で、多くの子どもたちが学校生活の変容を迫られました。



画像出典: <https://www.nhk.or.jp/bousai/articles/27755/>

地震を受けて変化したのは、子どもたちの学校生活だけではありません。子どもたちの居場所もなくなっています。子どもの居場所とは、子ども・若者が過ごす場所、時間、人との関係性が構築された、居心地の良い空間のことです。物理的な「場」だけでなく、遊びや体験活動、オンライン空間など多様な形態があります。しかし、地震によって、子どもたちが心置きなく遊んだり、友達と笑顔でお話したりする機会が奪われてしまったのです。実際、子どもとその親を対象にした調査では、習い事や地域の行事など、学校外の体験機会が減っていることが明らかとなっています。

このような社会課題は、災害によって顕在化しましたが、平時にも潜んでいます。現在の日本では、家庭や社会構造の変化・複雑化によって、子どもたちが居場所をもつことが難しくなっています。保護者が仕事で忙しく、子どもと保護者の関係性が希薄になる、地域とのつながりがなくなる、不登校・引きこもりになる。このように、子どもたちが人と関わりながらのびのびと成長する場が失われているのです。

このような子どもたちの居場所への支援は、「居場所づくり」と呼ばれており、様々な団体がこの問題に取り組んでいます。例えば、学習支援では、子どもたちが自由に来て勉強ができるような空間づくりをしており、子どもたちは大人や大学生と一緒に宿題をしたり、分からないところを教えてもらったりしています。また、食事・健康の支援では、子どもが健康的な食生活と習慣を獲得できるように、比較的低価格で料理を提供し、大人数で楽しく食べることができる「子ども食堂」があります。

「居場所づくり」の支援を行っている団体・活動はたくさんあります。関心があれば、ぜひ覗いてみてください。

参考文献: <https://www.nhk.or.jp/bousai/articles/27755/>、[https://cfc.or.jp/wp-content/uploads/2024/11/noto\\_research2024.pdf](https://cfc.or.jp/wp-content/uploads/2024/11/noto_research2024.pdf)  
[https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic\\_page/field\\_ref\\_resources/816b811a-0bb4-4d2a-a3b4-7834456cca3/9dade72e/20231201\\_policies\\_ibasho\\_09.pdf](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/816b811a-0bb4-4d2a-a3b4-7834456cca3/9dade72e/20231201_policies_ibasho_09.pdf)

## Column ボランティアコーディネート

明珍 達也 工学研究科修士1年

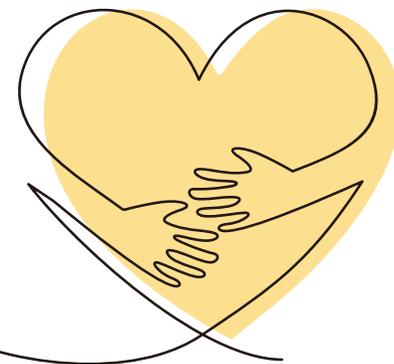
ボランティアコーディネートとは、市民のボランティア活動を支援し、実際の活動においては、ボランティア活動を円滑に行えるよう、市民と市民、あるいは市民と組織を繋いだり、組織内での調整を行うことを指します。日本ボランティアコーディネーター協会によれば、ボランティアコーディネーターには、市民・団体からの多様な要望を受け止める、活動の場を開拓しボランティアを募集する、情報の収集と整理をする、調整や紹介をする、気づきや学びの機会を提供する、新たなネットワークづくりやプログラム開発をする、記録・統計を行う、情報発信の8つの役割が求められるとされています<sup>[1]</sup>。

災害ボランティアコーディネートは、被災者の要望や困りごとを傾聴し、必要なニーズを掘り起こし、ボランティアに繋げることです。能登半島地震においても、災害ボランティアコーディネートは大きく貢献しました。例えば、災害ボランティアセンターは、被災地域の市町村社会福祉協議会が設置・運営をしており、瓦礫の撤去や被災家屋の清掃など被災者の生活支援を主とし、一般ボランティアへの斡旋を行っています。また、NPOなど多様な民間団体も災害ボランティアコーディネートとして機能しており、床板の除去作業や、重機が必要な瓦礫の撤去、支援物資のトラックによる運搬や避難所の運営支援など、専門的な技能・知識が必要な支援と専門性をもつボランティア団体や個人を繋げています。

近年災害が頻発化している中、ボランティア活動は活発化しており、広域から多数駆けつけるボランティアの調整の負担が増えています。

東日本大震災から10年以上が経過した東北地方では、ボランティアの需要はコミュニティ形成支援や地域おこしなどにシフトしています。小さいコミュニティから市町村まで、ボランティアの力を必要としています。地域とボランティアのマッチング、コミュニケーションを行うことがボランティアコーディネートに求められ、より一層重要となっていきます。

参考文献: [1] [https://jvca2001.org/whats\\_vco/explanation/](https://jvca2001.org/whats_vco/explanation/)



## ボランティア団体の紹介

01	東北大学 SCRUM	震災関係	登録内	p15
02	東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか	震災関係	登録内	p15
03	東北大学 インクストーンズ	震災関係	登録内	p16
04	東北大学 福興youth	震災関係	登録内	p16
05	東北大学ボランティアサークル たなぼた	震災関係	登録内	p17
06	東北大学地域復興プロジェクト HARU	震災関係	登録内	p17
07	国際ボランティア団体 As One	国際	登録内	p18
08	東北大学ボランティアサークル あすなさ~ASUNASA~	防犯	登録内	p18
09	東北大学 公共空間ポッチャプロジェクトD&I	地域支援	登録内	p19
10	東北大学光のページェント Navidad	地域支援	登録内	p19
11	NPO法人 ケアブレンド	地域支援	登録外	p20
12	NPO法人 COLLAWAKE(コラウェイク)	地域支援	登録外	p20
13	特別支援室・学生サポーター	教育・学習支援	登録外	p21
14	NPO法人 アスイク	教育・学習支援	登録外	p21
15	認定NPO法人 キッズドア	教育・学習支援	登録外	p22
16	仙台自主夜間中学	教育・学習支援	登録外	p22
17	NPO法人 TEDIC	教育・学習支援	登録外	p23
18	一般社団法人 ワカツク	キャリア・若者	登録外	p23

## 00 団体名

学生ボランティア団体として大学に登録しているかどうか

QR  
コード

SNS

### #キーワード

①団体概要 ②ミーティング・活動の頻度 ③メンバー数 ④具体的な活動内容 ⑤新入生へ一言

代表:代表者名 | メールアドレス

## 01 東北大学 SCRUM



Instagram

### #学ぶ深める #ボランティアのボランティア

- ①東北大学のボランティア団体支援をしながら、地域の魅力発信活動や震災伝承に関する活動など、メンバーの興味関心に沿った多様なボランティア活動に取り組んでいます。
- ②定期ミーティング: 毎月第2火曜日 18:00~  
活動: 週末
- ③67名
- ④活動内容は多岐に渡りますが、ここでは2つ紹介します。  
ボランティアフェアの運営: 4月に東北大学のボランティア団体とNPO法人等の合同新歓を運営しています。  
学生語り部: 大川小学校(震災遺構)にて、そこでの出来事と自分たちの思いを一般の方に伝えています。
- ⑤ボランティアの経験がなくても興味があれば大歓迎です!一緒にSCRUMで一歩を踏み出してみませんか。



代表:若生 みりあ | E-mail: vol.tohoku.univ@gmail.com

## 02 東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか



Instagram

### #ぽかぽか #陸前高田 #ボランティア

- ①ぽかぽかは①地域コミュニティ形成支援②地域活動の支援③伝承・情報発信の三つを活動の柱とし、日々活動をおこなっています。
- ②毎週水曜日 18:00~20:00
- ③34名
- ④①公営住宅の住民さんや地域の子どもの対象とし、料理や手芸を行うワークショップを定期的に開催しています。②地域の伝統行事である七夕祭りや権現舞(気になる方はSNSを見てみてください)のお手伝いをし、伝統行事の継続を支援しています。
- ⑤ぽかぽかは陸前高田市やボランティアに興味がある人をお待ちしています!!!



代表:泉田 瑞揮 | E-mail: tohoku.poca2@gmail.com

## 03 東北大学 インクストーンズ



Instagram

#コミュニティ形成支援 #震災学習  
#魅力発信

震災関係

登録内

① 私たちは宮城県石巻市内の復興公営住宅で、住民同士の交流の場としてイベントを企画し、コミュニティ形成に貢献することを目的として活動をしています。

② 毎週月曜日 18:00～(長期休業期間等を除く)

③ 52名

④ サロン活動：復興公営住宅の集会所で、住民さんとお話しながら、料理や工作をして交流します。  
震災に関するスタディーツアー：震災遺構の見学、語り部の方々のお話を聞くことで震災に対する知見を深めています。

⑤ ボランティアを始めてみたい方、色んな人との交流をしたい方、震災について学びたい方、大歓迎です！



代表：梅澤 亮太 | E-mail:tohoku.inkstones@gmail.com

## 04 東北大学 福興youth



Instagram

#福島現状を学び発信  
#地域活性化の支援

震災関係

登録内

① 福島県浜通り地域を中心に活動するボランティア団体です。地域産業の支援や公営住宅での交流企画の実施を通して、地域活性化やコミュニティ形成の支援、福島県の現状の発信を目標としています。

② ミーティング：木曜日(長期休み等を除く)

現地での活動：月2～3回

③ 45名

④ 福島県大熊町において、おおくまキウイ再生クラブのもとで運営の補助やイベント企画の実施、作業会への参加をしています。スタディーツアーでは、団体外の東北大学生とともに福島県の震災関連施設を訪れ、SNSを通して学んだことや感じたことを発信しています。

⑤ 楽しい活動ばかりです！まずは一度お話を聞きに来てみてください！



代表：菊地 史 | E-mail:fukkoyouth.tohoku.univ@gmail.com

## 05 東北大学ボランティアサークル たなぼた



Instagram

#サロン活動 #工作・体操・クイズ  
#イベント補助

震災関係

登録内

① 3B (Band, Beginner, iBasho) をスローガンに、地域の集会所でサロン活動を実施し、住民と大学生との交流を通じて、地域のコミュニティ維持・拡大を目指しています。

② ミーティング：月1回程度(日程調整あり)

活動：月3回程度

③ 52名

④ 石巻あゆみ野地区・仙台市大和町・仙台市荒井東の3カ所を中心にサロン活動をしています。季節に合わせた工作や体操、脳トレクイズを企画し、住民の皆さんと対話を深めています。その他、自治会のイベント運営のお手伝いも行います。高齢者の方や子どもたちと楽しく関わられるボランティアです。

⑤ ボランティア初心者こそおすすめ活動です！いつでも相談・質問お待ちしておりますばた～！



代表：畠山 颯汰 | E-mail:tanabotatohoku6@gmail.com

## 06 東北大学地域復興プロジェクト HARU



Instagram

#震災復興 #地域おこし #宮城県山元町

震災関係

登録内

① 東日本大震災で被災した宮城県山元町にて、震災復興・地域おこしの活動をしています。震災をきっかけに少子高齢化が加速してしまった山元町を盛り上げることを目標としています。

② ミーティング：月1回(平日)

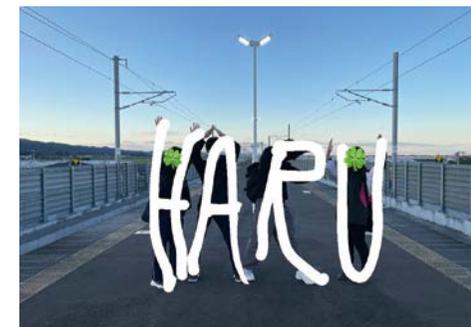
活動：土曜日と日曜日

③ 24名

④ ①山元町で行われるイベントの企画や学生ブースの出店、当日の運営のお手伝いをしています。

②聞き書きや震災遺構中浜小学校での語り部など、震災伝承に関する活動をしています。

⑤ 山元町はとても暖かく魅力あふれる町です。皆さんと山元町を盛り上げることができたら嬉しいです。



代表：大島 幸太郎 | E-mail:office@haru-tohoku.org

## 07 国際ボランティア団体 As One



Instagram

国際 登録内

#復興支援 #海外建築 #居場所づくり

- ① 私たちは2013年に設立されて以来、東北地方の復興支援のみならず、東南アジアを中心とした海外にて、建築・ボランティア活動など様々な活動を行っています。
- ② 月曜日 18:10~
- ③ 102名
- ④ GV (Global Village) : 春休みのうち約10日間を使い、メンバーを募って東南アジアを中心に建築のボランティア活動を行っています。  
 スタディツアー: 伝承館や震災遺構などを巡り、東日本大震災について学習しています。
- ⑤ 宮城県内から海外まで、様々な活動を行っています! 雰囲気も柔らかいので是非一緒に活動しましょう!



代表: 清水 心 | E-mail: tohoku.asone2013@gmail.com

## 08 東北大学ボランティアサークル あすなさ~ASUNASA~



X

防犯 登録内

#防犯 #立ち直り支援  
 #サイバーパトロール

- ① 「あすの朝を安心安全に」という精神の下、大学・自治体・企業等と連携した気軽な防犯ボランティア活動による安全安心な社会づくりを目指します。
- ② 月1~2回程度 (メンバーの都合に合わせて実施)
- ③ 25名
- ④ 立ち直り支援、サイバーセキュリティ、街頭安全の3つを軸に活動しており、学内の自転車の施錠状態の調査、SNSの見回り通報活動、更生保護施設でのお手伝い、専門家を招いての勉強会の実施等、様々な活動をしています。
- ⑤ 設立3年目の団体なので幅広く自由な活動ができます! 直接学び、社会に貢献したい方におすすめです。



代表: 福田 蒼龍 | E-mail: asunasa2022@gmail.com

## 09 東北大学 公共空間ボッチャプロジェクトD&I



HP

地域支援 登録内

#公共空間ボッチャ #まちづくり  
 #Diversity&Inclusion

- ① 私たちは、ユニバーサルスポーツであるボッチャを通じて、多様性を尊重し、性別や年齢、国籍、障害の有無などに関わらず誰もが暮らしやすい共生社会の実現を目指して活動しています。
- ② 月1回の定期練習と体験会を実施
- ③ 42名
- ④ まちなかの公共空間などで行われるイベントで体験会を実施し、初めての人でも気軽にボッチャを楽しんでもらっています。
- ⑤ 共生社会の実現に向けて楽しくボッチャをやってみませんか! ぜひお待ちしております!



代表: 津田 京香 | E-mail: boccia.tohoku.univ@gmail.com

## 10 東北大学光のページェント Navidad



Instagram

地域支援 登録内

#光ペ #イベント企画運営 #募金活動

- ① 毎年12月に開催されるSENDAI光のページェントの企画運営や宣伝などを行っています。冬の仙台を盛り上げるために年間を通してイベントの企画をしています。
- ② 主に月1回土曜日 (変動あり)
- ③ 34名 (東北大学以外を含めると約70名)
- ④ 東北最大級のイルミネーションイベントである「光ペ」で実施されるイベントの企画・運営を学生ならではの視点で一年をかけて審議し、実行に移していきます。他の大学に通う学生や来場者、運営に携わる社会人部会の方など、人と関わる機会もたくさんあります。
- ⑤ イルミネーションが好き、人と話すのが好き、イベントを企画してみたいという方、一緒に活動しませんか。



代表: 市川 涼 | E-mail: student.hikape@gmail.com

## 11 NPO法人 ケアブレンド



HP

#子どもの居場所づくり

#子どもの遊び相手や話し相手

- 夫婦二人で仕事をしながら地域の問題解決の為、ボランティアでイベントを開催。現在は教育委員会の後援を頂き、子どもの遊び場づくりを高校生や大学生と行いコミュニティスクールに繋がっています。
- 不定期（宮城県全域の23の高校で土曜日と日曜日に開催）
- 4名
- 子どもの居場所づくりとして地域の小学生や未就学児とボードゲーム等を介して一緒に遊んで頂きます。会場の設営や片付けもあり、学生同士の交流を深めながらボランティアして頂けます。
- ボランティアが初めての方も楽しんでご参加頂けます！ご興味のある方はぜひよろしくお願ひいたします。



代表:中山 良子 | E-mail:jam19801218@gmail.com

## 12 NPO法人 COLLAWAKE (コラウェイク)



HP

#Well-being #協働で価値共創  
#キャリア支援

- 「大人（18歳以上）の幸福度UP支援機関」です。大人の横の繋がりと挑戦の場を創り、成長とWell-beingに貢献することが目的です。所属を超えた協働で価値共創が行われ、大人が輝く社会を目指しています。
- 活動：週1回以上・1日4時間以上、日時は柔軟に調整可
- 正会員12名、プロボノ3名、学生ボランティア1~6名
- 1) 志ある地域企業とアクティブな学生の「顔の見える出会い」を支援する「ランチde就活」ポータルサイトの運営、広報PR、学生と企業の交流イベントの企画実施、魅力的な地元企業の発掘等を行っています。  
2) 横の繋がりがづくりとWell-being向上のため、「大人の習い事メディア@仙台」の構築を進めています。
- SNS広報でメディアの認知度アップ、地域企業の魅力発信、イベントの企画をしたい方、お待ちしております！



代表:築瀬 裕子 | E-mail:info@collawake.or.jp

## 13 特別支援室・学生サポーター



X

#障害学生支援

#東北大学有償ボランティア

- 障害に関係なく誰もがともに学べるキャンパスをつくるため、障害学生の修学支援を中心に行っています。
- 活動日：空きコマをもとに調整しています。
- 40名程度
- 具体的な活動内容として、聴覚障害学生への情報保障や移動に困難がある方のためのバリアフリーマップ作成、発達障害学生へのレポート作成支援など、障害学生のニーズに合わせて様々な活動を行っています。
- 学生サポーターは、学部・学年を問わず大歓迎です！



代表:東北大学 特別支援室 | E-mail:t-sien@ihe.tohoku.ac.jp

## 14 NPO法人 アスイク



HP

#学習・生活支援 #不登校・居場所支援

- 貧困、不登校、ひきこもり、ヤングケアラーなど困難を抱える子ども・家庭を支え、社会とつなぎ共助・公助を増やし続け、困難にぶつかっても自分の人生を好きになれる社会を目指しています。
- 活動：週1回～（詳細はHPをご覧ください。）
- ボランティア登録者数484人（各教室に3~5人）
- 生活困窮家庭（ひとり親、生活保護等）の小学4年生から高校生年代の放課後の学習サポート・居場所づくりでは、宿題やボードゲーム・お話をして過ごしています。不登校・ひきこもりの子ども・若者のフリースペースでは、テレビゲームや外遊びDIYなどやりたいことを自由に選択し、のびのびと過ごしています。
- 皆さんの関わりが、子どもを支え可能性を引き出すきっかけになります！一緒に活動しましょう！



代表:大橋 雄介 | E-mail:vol@asuiku.org

## 15 認定NPO法人 キッズドア



HP

#中高生の学習サポート  
#話し相手、遊び相手

教育・学習支援 登録外

- 1 仙台市宮城野区 (JR仙台駅東口) にて仙台市及び近郊に住む経済的困窮家庭世帯の中高生を対象に無料学習会を開催。勉強だけでなく体験学習やアクティビティも多く開催しています。
- 2 学習会ごとにミーティング有。半年に一度振り返りも行います。
- 3 ボランティア登録者100名以上 (学生、社会人合計)
- 4 学習会では生徒のペースに合わせて、勉強の不安な点や入試に向けた学習サポートをお願いします。居場所型自習室の開室日は、おにぎり等の軽食も提供しています。楽しくおしゃべりしたり、悩みを聞いたり、中高生の話し相手になっていただくと嬉しいです。
- 5 中高生にとって年齢の近い大学生は心強い存在です。子どもと接することが好きな方、お待ちしております！



代表: 渡辺 由美子 | E-mail: tohoku@kidsdoor.net

## 16 仙台自主夜間中学



Blog

#大人の学び直し支援 #多様な学びの場

教育・学習支援 登録外

- 1 仙台市生涯学習支援センターで開講しています。病気や障がい、家庭の事情、不登校などで学校での学習を満足にできなかった方々に寄り添い、学び直しのお手伝いをしています。
- 2 月2回 (昼間部、夜間部: 第1・3水曜日  
夜間部のみ: 第2・4金曜日)
- 3 43名 (東北大生5名)
- 4 様々な年代の方々の希望に沿った学び直しのサポートを行っています。学習内容としては、小学校で習うものから中学まで、広い範囲を扱っています。
- 5 教育活動に興味がある、様々な年代の方と関わりたい方におすすめです。いつでも見学可能です！



代表: 中澤 八榮 | E-mail: sendai.yakan@gmail.com

## 17 NPO法人 TEDIC



Instagram

#子どもの学習生活支援  
#居場所づくり #地域とのつながり

教育・学習支援 登録外

- 1 【心のひとりぼっちのいない街、石巻】を合言葉に、石巻圏域で子ども・若者の支援をしています。勉強、お話、遊び、ただ一緒にいるなど、一人ひとりに向き合うことを大切に活動しています。
- 2 2か月に1回程度 (土曜日と日曜日で実施)
- 3 20名程度
- 4 一緒におしゃべりをしたり、遊んだりすることを通して、心も体もほぐしながら過ごしています。さらに、宿題や課題のサポートを行いながらコミュニケーションを取ってもらっています。活動の幅が広いため、学生のみならず自身が得意なことや好きなことを発揮してもらいながら活動に取り組んでもらっています。
- 5 仙台在住の大学生も活動しています！子どもと関わるのが好き！経験してみたい！という方大歓迎です！



代表: 津富 宏 | E-mail: office@npo-tedic.net

## 18 一般社団法人 ワカツク



Instagram

#まちづくり #インターンシップ  
#社会起業

キャリア・若者 登録外

- 1 若者が活躍できる東北をつくるため、インターンのコーディネートや若者活動の支援、地域連携をしています。仙台では若者の活動を表彰する仙台若者SDGsアワードも運営しています。
- 2 不定 (メンバーの都合で変えます。オンラインがメインです)
- 3 社会人6人、学生メンバー12人
- 4 東北各地の課題解決活動を支援。学生の皆さんに、東北20地域で行われる実践型インターンシップを紹介して経験を積んでもらったり、新しい自分に出会ったり。年間300人以上の学生が東北をフィールドに活躍しています。また、学生支援そのものをやってみたい方をインターン生として受け入れています！
- 5 大学を越えて活動したい方、ワカツクの門を叩いてください。市内のみならず全国の学生とも繋がれます！



代表: 渡辺 一馬 | E-mail: info@wakatsuku.jp